

令和3年2月26日  
農推第1189-11号

## 病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

向こう1ヶ月は気温が高いと予想されています。病害虫の早期の発生に注意しましょう。

## 特に発生に注意

## バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

## クビアカツヤカミキリ

- ・今後の羽化・成虫の分散を防ぐため、被害が大きい樹は伐採し、伐採した枝や幹は、ほ場に放置せず処分しましょう。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆いましょう。
- ・伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぎましょう。

## ぶどう

## クワゴマダラヒトリ

- ・成虫は年1回、8～9月にアカメガシワ、ニセアカシア、カラスザンショウなどに産卵します。
- ・越冬は、主に中齢幼虫で落葉や樹木の地際部で行います。越冬後、3月以降に幼虫が移動し、ブドウの新梢や葉を食害します。
- ・初期に新梢の生長点が加害されると、被害が大きいので初期防除に努めましょう。
- ・発生を確認した場合は、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、オリオン水和剤40などを散布しましょう。

## なす

## アザミウマ類

- ・苗からの持ち込みによる発生がみられることがあります。
- ・発生が見られたら、ディアナSC、アフーム乳剤、モベントフロアブル、グレース乳剤などを散布しましょう。
- ・雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底しましょう。



クワゴマダラヒトリの幼虫※



ミナミキイロアザミウマ成虫※

次回の情報は3月下旬にお知らせします。

- ◎「病害虫防除グループホームページ」に令和3年版病害虫防除指針巻頭カラー特集ページ「水稲 トビイロウンカの防除」を掲載しました。<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/>
- ◎「防除指針」<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

**※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。**

# 水稻

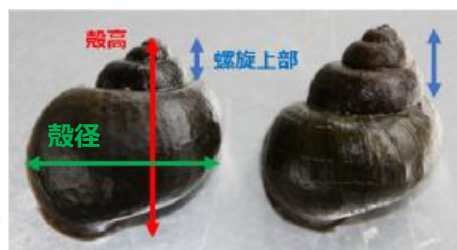
## ジャンボタニシ（スクミリングガイ）



用水路（水口）のジャンボタニシ卵塊



ジャンボタニシ  
（スクミリングガイ）



ジャンボタニシ

マルタニシ



ヒメタニシ

注) 当該項目「ジャンボタニシ(スクミリングガイ)」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために」より引用。

### 特徴

- ◆ 成貝の殻高は2～7cm程度。
- ◆ 他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じである（上部写真参考）。
- ◆ 主に田植え直後（約20日後まで）の苗が食害され、欠株になる。
- ◆ 年々発生地域が拡大している。

### 防除のポイント

- ◆ 刈り取り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて、越冬貝を減らす。
- ◆ 耕うん機などの土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。
- ◆ 本貝には人体に有害な寄生虫（広東住血線虫）がいる場合があるため、ゴム手袋やゴミ拾い用トングなどを使用し、素手では扱わないようにする。もし、素手で触った場合には、石けんで手をよく洗う。

ホームページに掲載しているカラー技術資料  
「ジャンボタニシ（スクミリングガイ）から稲を守りましょう！」についてもご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>

## 果樹

## ぶどう(加温栽培)

## 灰色かび病



灰色かび病の症状

## 特徴

- ◆多湿条件で発生が多くなる。
- ◆胞子（分生胞子）が雨や風によって飛散し、傷口などから感染する。

## 防除のポイント

- ◆適切に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆第1回ジベレリン処理から結実始めの間にビニルでマルチングをする。
- ◆開花直前または落花直後にゲッター水和剤、スイッチ顆粒水和剤、ネクスターフロアブルなどを散布する。

## ハスモンヨトウ



ハスモンヨトウの幼虫\*

## 特徴

- ◆幼虫が葉や新芽を食い荒らす。
- ◆卵は100個くらいの塊で葉に産み付けられるので、卵からかえった幼虫が集団で葉を食べる。
- ◆早期加温栽培では3～4月に被害を受けやすい。

## 防除のポイント

- ◆幼虫が集団で発生している葉を切り取って処分する。
- ◆発生を確認した場合は、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、ディアナWDGなどを散布する。

## ハダニ類



カンザワハダニ※

## 特徴

- ◆加温機の近くやダクトの先端部など、高温になりやすいところから発生する。

## 防除のポイント

- ◆発生を確認した場合は、マイトコーネフロアブル、ダニコングフロアブル、ダニトロンフロアブルなどを散布する。

## クワゴマダラヒトリ



クワゴマダラヒトリの幼虫※

## 特徴

- ◆成虫は年1回、アカメガシワ、ニセアカシア、カラスザンショウなどに産卵する。
- ◆越冬は、主に中齢幼虫で落葉や樹木の地際部で行う。越冬後、3月以降に幼虫が移動しブドウの新梢や葉を食害する。

## 防除のポイント

- ◆初期に新梢の生長点が加害されると、被害が大きいため初期防除に努める。
- ◆発生を確認した場合は、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、オリオン水和剤40などを散布する。

## いちじく

## ハダニ類、カイガラムシ類



カンザワハダニ※



フジコナカイガラムシ幼虫※

## 防除のポイント

- ◆夏期の被害をおさえるため、3月中旬（発芽前）に石灰硫黄合剤を散布する。

## もも

## せん孔細菌病



春型枝病斑



葉の病斑

## 特徴

- ◆春になると越冬した病原菌が増殖し、春型枝病斑（スプリングキャンカー）を生じる。
- ◆病原細菌は、雨水に混じって分散し、気孔や傷口から感染する。

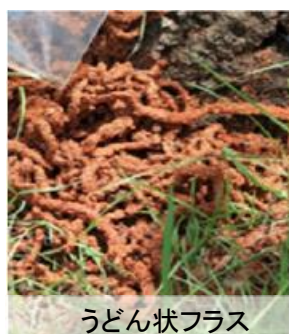
## 防除のポイント

- ◆開花期直前にICボルドー412を散布する。（葉害を生じるおそれがあるため、開花後から8月下旬までは使用しないこと。）
- ◆春型枝病斑を見つけたら、落花期までに切り取ってほ場外に持ち出し処分する。
- ◆風当たりの強いほ場では防風ネットを設置する。



## バラ科果樹(もも、すもも、うめ等のサクラ属)

## クビアカツヤカミキリ



## 防除のポイント

- ◆被害が大きい樹は伐採し、破碎や焼却することが望ましい。
- ◆伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぐ。

## 伐採後の切株について



## 処分に伴う運搬について

- ◆本種は特定外来生物に指定されており、伐採樹であっても、内部に幼虫が潜んでいる場合は運搬が制限される。このため、処分のための運搬であっても市町村の指示に従うこと。
- ◆市町村焼却施設（もしくは市町村の清掃工場）で焼却可能な場合は、ネットで被覆するなどの分散防止措置を実施の上、現地より運搬して焼却する。

## 野焼きについて

- ◆廃棄物の処理と清掃に関する法律第16条の2により、野焼きは原則として禁止されている。一方で施行令第14条第4項において、「農業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却」については例外とされている。  
例外に該当するかどうかは市町村によって異なるため必ず確認し、なるべく焼却施設にて焼却する。

クビアカツヤカミキリの特徴および防除方法の詳細については、下記リンク先をご確認ください。

- 令和2年5月13日発表 防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！」

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R2nd/boujyoyouhou/R0205kubiaka.pdf>

- 技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」

[http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia\\_bungii/Aromia\\_bungii\(HB104\).pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/Aromia_bungii(HB104).pdf)

## 野菜

## なす（施設栽培）

## アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

## 特徴

- ◆ 苗からの持ち込みによる発生がみられることがある。

## 防除のポイント

- ◆ 発生が見られたら、ディアナSC、アフーム乳剤、モベントフロアブル、グレイシア乳剤などを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆ 雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

## 灰色かび病



灰色かび病症状\*

## 特徴

- ◆ 咲き終わった花弁や幼果に感染しやすい。
- ◆ 20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。

## 防除のポイント

- ◆ 適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、ベルコート水和剤等を、発生を認めたら、パレード20フロアブル、ネクスターフロアブルなどを散布する。

## トマト・ミニトマト（施設栽培）

## すすかび病

すすかび病被害葉※  
表(左) 裏(右)※

## 特徴

- ◆ 日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- ◆ 近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

## 防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤などを散布する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

\*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

## きゅうり(施設栽培)

## 黄化えそ病(ミナミキイロアザミウマ)



きゅうり黄化えそ病被害葉

## 特徴

- ◆きゅうり黄化えそ病は、メロン黄化えそウイルス(MSV)によるウイルス病であり、きゅうり、メロン、スイカ、シロウリ、ニガウリに感染する。
- ◆MSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化などの症状を示す。
- ◆MSVは、ミナミキイロアザミウマによって媒介される。

## 防除のポイント

- ◆MSVを媒介するミナミキイロアザミウマの防除を徹底することが重要である。
- ◆雑草はアザミウマ類の生息場所となるほか、ウイルスの感染源にもなるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

## たまねぎ

## べと病



べと病(苗における発病状況)\*

## 特徴

- ◆苗床・定植後に、作物残さなどから感染し、越年罹病株として病徴を現し、周辺への伝染源になる。

## 防除のポイント

- ◆越年罹病株の抜取を徹底する。前年に発生が多かったほ場では、発生が増える恐れがあるので注意してほ場を見回る。抜き取った株は、ビニル袋等に入れて処分する。
- ◆発生が見込まれる時期に、予防的にランマンフロアブル、ジマンダイセン水和剤を散布する。
- ◆発生を認めたら、ベトファイター顆粒水和剤、リドミルゴールドM、ホライズンドライフロアブルなどを散布する。

## 白色疫病



白色疫病発病株

## 特徴

- ◆2～3月が比較的温暖で雨が続くと発生しやすい。

## 防除のポイント

- ◆発生が見込まれる時期に、予防散布として、ランマンフロアブル、ジマンダイセン水和剤を散布する。
- ◆発生を認めたら、ザンプロDMフロアブル、プロポーズ顆粒水和剤、リドミルゴールドMなどを散布する。

## ネギアザミウマ



ネギアザミウマ成虫 ※

## 特徴

- ◆成幼虫が葉の汁を吸い、吸われた痕はカスリ状に色が抜けて白くなる。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ディアナSC、グレーシア乳剤、プレオフロアブルを散布する。
- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。